



# 季刊 すまいる



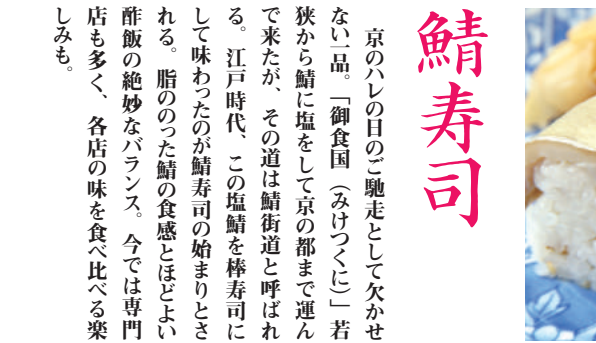
## こんかい 金戒光明寺 (京都市左京区)

法然上人が初めて庵を結んだ地で、「くろ谷さん」として親しまれる浄土宗大本山。幕末の会津藩、新選組ゆかりの寺でもある。秋の特別公開(2017年は11・10〜12・3)では、御影堂の伝慶作の文殊菩薩をはじめ、吉備観音像(重文)、山門などの拝観と、紅葉が見事な回遊式庭園「紫雲の庭」の散策を楽しめる。



## ツワブキ(石躑)

秋になると黄色い可憐な花を咲かせるキク科の多年草。花とツヤのある緑色の葉のコントラストが美しく、また葉も変化に富み、庭を彩る植物として古くから好まれてきた。京都市内では圓徳院(東山区)、蓮華寺(左京区)、三千院(左京区)など多くの寺院、庭園で愛でられる。



## 鯖寿司

京のハレの日のご馳走として欠かさない一品。「御食国(みけつくに)」若狭から鯖に塩をして京の都まで運んで来たが、その道は鯖街道と呼ばれる。江戸時代、この塩鯖を棒寿司にして味わたったのが鯖寿司の始まりとされる。脂のつた鯖の食感とほどよい酢飯の絶妙なバランス。今では専門店も多く、各店の味を食べ比べる楽しみも。



## 京都・

## 嵐山花灯路

2017(12月8〜17日)

寺院・神社、まち並みを「灯り」と「花」で演出する「京都・花灯路」。嵯峨・嵐山エリアでは2005年に始まり、露地行灯などのやさしい灯りと華やかな生け花作品が、渡月橋や竹林の小径を包む。よりいっそう風情をかもし出し、京の師走の風物詩になっている。

## 堀川ごぼう

京都の伝統野菜のひとつで、約400年前から作られてきたとされる。旬は11月〜1月頃。一般的なごぼうより大きく、ビタミンやミネラル、食物繊維などの栄養価も高い。風味が良く、繊維が柔らかいので中まで味が染み込みやすい。たたきゴボウや胡麻和えなどのほか、中の空洞部分に肉やエビを詰めるなどして煮物に。



# iPSテクノロジーの活用で創薬・再生医療分野の未来を拓く

iPSポータル代表取締役社長

## 村山昇作氏



医療法人啓信会理事長

## 中野博美氏



**創薬・再生医療分野の発展に貢献する**  
iPSポータルは、大学と企業、企業と企業を結ぶポータルカンパニーとして、iPS細胞培養から関連装置に至るまで幅広くカバーし、iPSテクノロジーの事業化を推進しています。日本銀行のトップエコノミストから再生医療の分野に転身された村山昇作さんからお話をうかがいました。

### 日銀から医療分野への転身

**中野** ● 山中伸弥先生がiPS細胞を作成され、最終的にはノーベル賞まで受賞されましたね。

**村山** ● そうですね、初めてiPS細胞を樹立されました。

**中野** ● iPS細胞が樹立されて、iPS関連の事業の管理をすることです、どういうふうにいPSポータルが立ち上げられたかという経緯を、村山さんがiPSと関わられる以前、日銀のご出身から医療系に携わられるに至るまでの経緯も含めて、まずはお話いただければと思います。

**村山** ● 私が日本銀行で一番お世話になった方の一人に、三重野康さんという総裁がおられました。その方の生き方で人生に2つ選択肢があるとすれば「これは厳しい」とい

う方を選びなさいと。人生は楽な方を取っていくと、そうでなかった場合のショックは相当大きい。しかし自分の意志で取って困難な道を選んだのであれば、困難であっても納得がいくし、結果として楽であればラッキーだったということになります。人生の転機には常にこの言葉が頭にありました。私が元々日本銀行に何故入ったかという

と、エコノミストとして、日本経済の分析をして、日本経済のメカニズムを極めたいと思ったからですね。そういう意味では最終的には調査統計局局长、いわゆるチーフエコノミスト、200人以上のエコノミストの頂点に立って、もう自分の目標は達せられたという感じがありました。その後、私が日本銀行高松支店の支店長だった時に知り合いになった、帝國製薬のオーナーの方から、ぜひ帝國製薬の社長として来て欲しいというお話をいただきました。

**中野** ● 帝國製薬は四国の高松ですか。

### iPSアカデミアジャパンからiPSポータルへ

**村山** ● 生活の拠点を香川県に移し、帝國製薬で10年間社長を務めまして、京都に帰ってまいりました。そこで京都大学の松本総長からiPSアカデミアジャパンの2代目の社長をやって欲しいというお話をい

いただきました。

iPSアカデミアジャパンは、平成20年に京都大学が山中先生のiPS関連の特許を中心にそれを管理する会社として、いわゆるTLO(技術移転機関)とは別につくられることになりました。創立当初、副学長だった松本先生から会社をつくるから手伝うように言われて、メンバーはほとんど私が集めました。そういうご縁があつて初代社長の吉田先生が天理の大学の学長になられた時にお話があつたのですが、そんな立派な方の跡を継ぐということで遠慮したんですけれども、設立以来携わっているお前しかいないということで、社長を引き受けたんです。

**中野**●なるほど、そうでしたか。

**村山**●その後、当初はこの会社、なかなか苦しくてですね、山中先生の特許といつてもほとんど注目されずにいました。

**中野**●それはノーベル賞の前ですね。iPSの前のES細胞とか。

**村山**●はい。ですからiPSもそんなに注目されていない、特許もなかなか使っていただけで、したがってほとんど収入がなくて、このままでは会社が大変なことになるということで、私が色々な事業を始めたのです

けれども、この事態が変わつたのはやはりノーベル賞前後で、その頃からiPS細胞が注目され始めました。それから特許もどんどん使われ始めて特許収入も増えてきていうことで、そうなるかと京都大学としては特許ビジネスはとても重要なわけですね。ところが一般事業の方は事業が大きくなってくるとリスクも出てきますので分離した方がいいのではないかとということで、受け皿を作ることが必要になり、私がつくったのがこのiPSポータルという会社なんです。行きがかり上私がそちらへ移って、社長をしているという経緯があります。

### 日本経済復活のキーは 新規分野への投資

**中野**●iPSアカデミアジャパンの方は特許関連の会社ですね。

**村山**●そうです。特許管理の会社として今も京大の中にあります。それからどういう気持ちでiPSポータルという会社を始めたかということなんですけれども、私は日本銀行で30年間にわたって、エコノミストとして金融政策に携わりました。今金融政策はマイナス金利まできて、行きつくところどうなるんだという思いを持っています。決して金融政策だけでは日本経済は良くならないというのが日本銀行時代からの思い

だったわけです。

ではどうしたらまっとうな経済に戻るのかというと、一番の問題点は新しい投資が出てこないということなんです。今は企業も含めて貯蓄ばかりなのです。今ある技術分野というものは、ほとんどやりつくされてこれ以上投資をしても、良いリターンがないということなんです。

**中野**●魅力ある投資先がないというような。

**村山**●そうなんです。投資をして工場をつくっても、リターンがあるのかという。銀行からお金を借りてまで投資をしたい分野がもうないので。一方、iPSというのはこれからの分野なので、こういう新しい分野が出てこないとなし新しい投資は出てこないのです。



### iPSは日本がリード可能な 数少ない分野

**中野**●分かりやすいですね。こういう画期的なものでなければ投資は出てこないということですね。

**村山**●はい。それはAIのロボットであり、電気自動車であり、色々あるわけですが、私はこのiPSというのは未来の技術で、私でもない力を秘めているというふうに思ったわけです。私は事業化によってまさにこのiPSのテクノロジーが自在に使われる世界を1日も早くつくりたい。いくら基礎研究が進んでも、事業化をしないと患者さんの所に届かないですし、広がらないですよ。ですから私は自分1人でやるのではなくて、そういう社会に使われることをやっていこうというふうに思っています。

当面のターゲットは創薬へのiPSの応用です。しかし、我々は自ら創薬を行うことはありません。かわりに、iPSを利用して創薬を試みる研究者に必要なインフラを提供します。iPSを利用して、より画期的な薬をより安く、より短時間で創るお手伝いをしたいと思っています。そういう考えに一流企業が賛同し、出資しようというところで出資金が集まって、結局今16億円近く集まっています。極めつけは京都府の中小企業育成にも役に立つのでぜひ一口

乗らせて欲しいということで、京都府さんからも出資いただいております。こんな民間企業に京都府のような地方公共団体が出資するというのは、極めて稀というか日本です。初めてではないかと思えます。

## 現代の薬の問題点

**中野** ● 山中先生もスピーチで、少しでも早く患者さんの役に立てたいというお話をされてきましたよね。

**村山** ● そこはやはり大事なところで、研究のための研究で終わってはいけなと思います。そういう意味では臨床を経験した先生とか、臨床を持ちながら研究しておられる先生というのは、患者さんが目の前にいられるだけに、ぜひともこれは患者さんのために必要だという思いがものすごく強いんですよね。ですから研究室でも皆さんとても熱心というか、決して研究のための研究ではなく、今ここにおられる患者さんを救いたいという、臨床現場の熱意はすごいと思いますね。

私は以前から、今の薬の在り方というのは根本的に何かおかしいなという思いがありました。今の薬というのは万人に効くという建前でつくるわけですが、現実としてはそんな万人に効く薬はなかなかなくて、効く人もいれば効かない人もいるという

が現実です。

そういう中で創薬の現場では、本来であれば効く患者さんの分と、効かない患者さんの分をあらかじめ分けて、効く患者さんだけを相手に創薬をすれば、グツと費用が抑えられます。ではどうやって患者さんを見分けるのか、人体実験をする訳にはいかないの、実際には方法がなかったわけです。そんな中で出て来たのが、ギリアド社のソバルディという慢性肝炎の薬ですが、これはC型肝炎の2A、2B型にししか効かないんですけれども、その代りほぼ100%の治癒率です。こういう薬が出てくると患者さんからすると非常に良いことだと思えます。効かない薬を処方されることもないですし、製薬企業にとつてもこういう形でつくれるればコストが相当下がります。一番良いのは医療財的に見ても無用な処方が減るわけですから。

## 特定の患者群に応じた創薬

**中野** ● なおかつ、病気が治っていくわけですからね。去年と比べても、ずっと処方量が減って来ています。

**村山** ● そうですね。ソバルディは計算上3年半か4年で患者がゼロになると言われています。ギリアド社からすると4年で元を取らなければいけないので価格は高いです



が、今後私はこういう一部の患者さんには効かないけれども、絶対に治る薬をつくっていききたいですね。

今具体的に一番力を入れているのが疾患 iPS です。これはどういうものかと言うと、アルツハイマーの患者さんから血液をいただいて、それから iPS をつくって、その iPS を分化誘導して神経細胞にしているんですね。そうすると神経細胞の中にアルツハイマー特有の変異がある。アルツハイマーといつても色々なタイプがありまから、遺伝子変異の種類によつて薬の効き方が違います。ある薬が効くかどうかは患者さんの細胞を利用して知ることができます。我々はこれがうまくいけば、薬の開発の現場に革命が起ころと思っております。コストも1桁以上下がると思っています。国の方でも疾患 iPS バンクという、各大学でつくられた疾患 iPS を、理研の方に寄託をして理研が管理して研究に使えるように

なっている、我々は理研と連携して、これらの疾患 iPS がより広く使われるようにお手伝いしています。さらに、それで足りない分は、色々な大学と提携をして、例えば製薬会社からアルツハイマーの何型の患者さんを探してくれといわれると、大学に連絡をして患者さんを紹介していただくという体制を整えようとしています。

**村山** ● もう1つは、日本でこれができるのはわが社だけなのです。患者さんの血液を元に製品をつくるわけですが、血液法第12条があつて一般的にはやってはいけないことなんです。戦後貧しい人達が売血で生活を支えたことがあまりにも非人道的だということで、患者さんから血液をいただいで製品をつくって売ってはいけないことになっていきます。3年前にこれに気づいて一時落ち込んだのですが、国家戦略特区で特別地域事業者として例外的に認めてもらうということで道が開かれました。

## iPSポータル様々な事業

**中野** ● 血液を元にして iPS を作成することができるとですね。

**村山** ● はい。商業的にできるということですね。上手くいけば患者さんのお役に立てるということですね。これは全く新しい方法論

になりますから、我々は疾患iPSをつくって供給しますが、それだけではだめで、病態を再現した細胞がちゃんとできるかどうか、それは大学の先生達と一緒にやっています。そうなるにつれてそれを検査したり、観察するための新しい機器が必要になりますので、機器メーカーとも連携して、この3つがうまく連携しながらプラットフォームという新しいかたちで提供します。日本の研究用の機器、検査装置とか分析装置は世界的には世界一なのですが、それをテストする人がいない、テストするための細胞がないということで、うちに持ち込んだバックしながらどんどん性能を上げる。もう1つ大事なのは、日本の技術者は100%の完成度でないときと出さないので、それに固執すると国際競争に負けてしまう。場合によっては、9割できていたらまず販売して、あとで改良していけば良いということをお説得して、かなり早めに出るようになってきました。日本のメーカーが本来の力を発揮できるように、彼らが成功しやすいようにお手伝いしています。



もう1つは教育研修事業です。今日本全国どこでも人手不足、特に培養技術者が足りないんですね。派遣業界がそういう所を狙って人材を入れていくのですが、もう派遣する人もいないということで、派遣

会社の大手が自分のコストで人を育てる、そしてその人材を派遣するというのを始めました。大手派遣会社が公募した細胞培養士になりたい人の中から、潜在能力の高い適材の方を選別して、我々がその人達を集中的に教育して、派遣できるようにレベルまで育てる訳です。特に理系の人材でなくても主婦や販売員、事務員などをしていただく方も手先が器用であったり、料理が得意であったりすれば大丈夫なんです。手先、段取り、など料理も実験も並行作業ですから、そういう能力があれば大丈夫だと思えます。

またiPS事業に参入したい方向けに、3カ月に1度勉強会をやっています。今100社くらい入っていて、半日かけて先生方の話を聞いたり、我々が説明をしたりしています。あとは、大学発のベンチャーも支援しています。再生医療のためのベンチャー企業を立ち上げた大学の先生方をサポートしています。

むらやま しょうさく  
**村山 昇作**  
プロフィール



1949(昭和24)年  
出身：京都市

**学歴・職歴**

- 1972(昭和47)年3月 同志社大学経済学部 卒業
- 1980(昭和55)年5月 カリフォルニア大学(UCLA) 経済学修士
- 1972(昭和47)年4月 日本銀行 入行
- 1981(昭和56)年2月 日本銀行ニューヨーク事務所エコノミスト
- 1987(昭和62)～1988(昭和63)年 東京大学非常勤講師(計量経済学)
- 1994(平成6)年11月 日本銀行高松支店 支店長
- 1998(平成10)年6月 日本銀行調査統計局 局長
- 2002(平成14)年3月 帝國製薬株式会社 代表取締役社長
- 2014(平成26)年7月 株式会社iPSポータル 代表取締役社長

**主要著作**

- 『東ドイツカメラの全貌 一眼レフカメラの源流を訪ねて』
- 1998(平成10)年 朝日ソノラマ リチャード・クー、リヒャルト・フンメルとの共著
- 『目からウロコの日本経済論 金融政策は魔法の杖か』
- 2000(平成12)年 中央公論新社
- 『世界同時バランスシート不況』
- 2009(平成21)年 徳間書店 リチャード・クーとの共著

あとも我々はiPS技術の普及を目指しておりますので、WEBに「iPS細胞活用ガイド」というのをつくりました。これはiPS細胞の樹立や、分化誘導方法などについて先生方が論文を書かれたり、特許を取られたりしているものを、我々のラポで再現して動画にして無料で紹介しています。

意的で、例えば疾患iPSについては血液対策課の皆さんなどにサポートしていただいています。疾患iPS細胞事業は、開発コストの低減、患者QOLの改善、医療財政負担の削減、重症副作用事例の回避の4つをゴールとして目指しています。iPS細胞の研究成果の事業化のすそ野を広げることにより、事業化を加速し、日本の産業基盤の発展に寄与していきたいと思っております。



自由で安心・安全 笑顔の暮らし

# サービス付き高齢者向け住宅 「えがお」 オープン

10月1日、医療法人啓信会は、グループとして初のサービス付き高齢者向け住宅（サ高住）を久御山町佐山双置に開設しました。町内初でもあるサ高住で、10月5日から4日間行われた内覧会には約120名の方が来所され、同月中旬にはお一人目の入居者様が新しい生活をスタートされました。



医療法人啓信会 京都きつ川病院  
常務理事・事務局長 原 政幸

高齢者が安心して暮らせる住まい

サ高住は、ひとことでは言えませんが高齢者向けの賃貸住居で、そこに安否確認とお食事、生活相談や緊急時の対応など安心・安全で充実した暮らしを送っていただくためのサービスがついています。必要に応じて隣接する田村医院とともに、啓信会グループの京都きつ川病院・介護事業所と連携してサポートを行います。

このスタッフは全員が介護職経験者。24時間365日体制で入居者様の暮らしを見守っています。

四季を感じる庭と充実の設備

当住宅は、田村医院の敷地の一角に建っています。建物の前には庭園は以前からあったものを生かして、見学にこられた方が「旅館のよう」と驚かれるくらい、和モダンな建物と調和して落ち着いた空間を演出しています。館内は全室バリアフリーで、高齢者に優しく機能的な設備を備え、またスタッフのこだわりを反映した本格的なカラオケルームをはじめ、多目的ルームなどレクリエーションに対応したスペースも豊富です。

心安らぐ我が家、我が町に

「自由だからこそ笑顔でいられる」住まいを願い、中野理事長が「えがお」と名付けました。これまでの医療・介護施設運営の経験を十分に活かし、よりよい住まいの提供を目指しています。住居なので居住者の外出や来客をはじめ暮らし方は自由。

「自由ななかで、心安らぐ我が家だと感じてもらえる雰囲気をつくっていきたいです。まずは、ごあいさつなど日常的なお声がけからはじめ、自然な交流を心がけます」と、管理者の井上が言っていますが、ゆくゆくはここがひとつの自治体のようなになったら嬉しいですね。



季節ごとの表情も楽しい庭園



館内への入り口



ご見学用のモデルルーム。ベッドや家具は入居様が持ち込む

レストラン。庭園を望むカウンター席も



2階の浴室は、ピンクが基調で女性に好評



キッチン付きリビングルーム。館内の家具は曲げ木づくりが特徴の飛騨家具。自然の風合いをいかした心地いい肌触り



スタッフこだわりのミラーボールが気分を盛り上げるカラオケルーム



## サービス付き高齢者向け住宅「えがお」

### 概要

- 3階建 28戸
- 共有設備 食堂・台所・浴室・洗濯室・相談室・多目的室・無料シアター・カラオケルーム・トイレ・エレベーター・メールボックス・インターネット・地デジ対応
- 居室内設備 洗面台・トイレ・クローゼット・エアコン・ナースコール・物干し

〒613-0034 京都府久世郡久御山町佐山双置87番地3

TEL 0774-45-1470

FAX 0774-45-1471



見学は随時受け付け中です。お気軽にお問い合わせください

病院内の行事や予定などのお知らせです。また、病院のホームページでは、最新の情報を掲載していますので、ぜひご覧ください。

啓信会  ウェブ検索

<http://kyoto-keishinkai.or.jp>

京都きづ川病院 文化月間行事

第14回 健康まつり

年に一度の恒例「健康まつり」を開催します。楽しみながら健康を見直すきっかけに。お気軽にご参加ください。

参加無料



日時 2017年11月19日(日) 12:00~15:00 (受付 11:45~14:30) ※雨天決行

会場 京都きづ川病院 玄関前・1階フロア・食堂・リハビリ室

- 健康相談コーナー  
お薬・レントゲン・介護・栄養
- 健康測定コーナー  
血管年齢・骨密度・脳年齢・肌年齢・血圧
- 腰痛・肩こり教室
- 模擬店  
たこ焼き  
ペビーカステラ
- 子供コーナー  
もの作り体験 子供看護師体験  
子供薬剤師体験

…など

京都きづ川病院

院長 中川 雅生  
TEL.0774-54-1111 FAX.0774-54-1118

啓信会グループ

理事長 中野 博美

医療法人啓信会 介護老人保健施設 萌木の村

<城陽市寺田奥山1-6>  
施設長 大隅 喜代志  
TEL .0774-52-0011  
FAX.0774-52-0701

医療法人啓信会 介護老人保健施設 ひしの里

<久世郡久御山町佐古内屋敷81-1>  
施設長 横田 敬  
TEL .0774-43-2626  
FAX.0774-43-2627

医療法人啓信会 きづ川クリニック

<城陽市平川西六反44>  
院長 青谷 裕文  
TEL .0774-54-1113  
FAX.0774-54-1115

関連施設

- 京都四条診療所 ●四条健康管理センター

在宅サービス

- 訪問看護ステーション きづ川はろー
- ヘルパーステーション 萌木の村 21
- ヘルパーステーション リエゾン大津
- ヘルパーステーション リエゾン大久保
- ヘルパーステーション リエゾン四条
- ヘルパーステーション リエゾン健康村
- ヘルパーステーション リエゾン羽束師
- デイサービスセンター リエゾン健康村
- デイサービスセンター リエゾン久御山ひしの里
- デイサービスセンター リエゾン羽束師
- デイサービスセンター リエゾン宇治おおくぼ
- 認知症対応型デイサービスセンター リエゾン 萌木の村
- 認知症対応型デイサービスセンター リエゾン久御山ひしの里
- 介護予防デイサービスセンター リエゾン 萌木の村
- 居宅介護支援事業所 リエゾン大津
- 居宅介護支援センター 萌木の村
- 居宅介護支援センター リエゾン四条
- ケアプランセンター リエゾン健康村
- ケアプランセンター リエゾン久御山ひしの里
- ケアプランセンター リエゾン羽束師

- ケアプランセンター リエゾン宇治おおくぼ
- 城陽市在宅介護支援センター 萌木の村

地域密着型サービス

- 小規模多機能ホーム リエゾン萌木の村
- 小規模多機能ホーム リエゾン健康村
- 小規模多機能ホーム リエゾン久御山ひしの里
- 小規模多機能ホーム リエゾン羽束師
- 小規模多機能ホーム リエゾン宇治おおくぼ
- グループホーム リエゾン萌木の村
- グループホーム リエゾンくみやま
- グループホーム リエゾン健康村
- グループホーム リエゾン羽束師
- グループホーム リエゾン宇治おおくぼ

サービス付き高齢者向け住宅

- サービス付き高齢者向け住宅 えがお

教育部門

- ケアスクールリエゾン 大久保校
- ケアスクールリエゾン 大津校



医療法人 啓信会 京都きづ川病院

〒610-0101 城陽市平川西六反 26-1 TEL 0774-54-1111 FAX 0774-54-1119  
URL <http://kyoto-keishinkai.or.jp/kizugawa>